

授業科目	子どもの保健Ⅱ			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	荒井眞智子							
ナンバリング	ESU2E51	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	乳幼児が集団生活する園では感染症の罹患や事故の発生は避けられない。そのため集団を対象とした健康管理や予防法、事故に対する対処法と危機管理等を学ぶ。また良好な保育環境を整備するための法律や、地域内の子育てサポート体制、外部医療機関との連携体制等、授業や参考書、配布資料、意見交換（グループディスカッション）を参考にしながら、主体的に広く学びを深めていく。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・保育は子どもの発達段階に応じて「養護と教育を一体化」した考えで、実践する業務であることを理解できる。 ・少子高齢化、多様化する価値観、家族形態の変化の中で成長していく子どもたちの心身へのかかわり、望ましい養育環境、虐待への早期発見と対策など、社会の中に内在する種々の課題を理解できる。 ・子どもに多い事故を知り、適切な対応や救急・応急処置・予防対策について理解できる。 ・授業を通して乳幼児の心身の発達をふまえて主体的に問題意識を持ち、「実践における様々な問題を解決することができる」能力を身につける。							
授業計画	第1回	テーマ	保健における養護と教育の一体性					
		内 容	子どもの日常生活は幼いほど養護的な部分が多く、成長と共に教育的アプローチが多くなっていく。養護と教育の概念と保育士の役割を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、「養護と教育の意義」の違いと関係について理解する。 復習： 資料、授業内容をもとに要点、理解できた知識を整理する。					
	第2回	テーマ	子どもの健康増進と保育環境					
		内 容	子どもの健康状態を把握（健康診断、健康観察）し、適切な保育環境を考える。					
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、健康状態の観察法や保育環境について理解する。 復習： 保育実習で学んだことや、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。					
	第3回	テーマ	子どもの生活習慣と心身の健康					
		内 容	子どもが基本的な生活習慣を身につけることは健康維持に必須である。また子どもの「遊び」は、心身の発育・発達に大きな影響を及ぼす大切な習慣であることを学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、基本的な生活習慣の形成と遊びの効果について理解する。 復習： 保育実習で学んだ既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。					
	第4回	テーマ	子どもの発達援助と保健活動					

	4回	内 容	年月齢に応じた発達の特徴を知り、子どもの個性と、能力を伸ばす術を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、年月齢に応じた子どもの発達の特徴と課題を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第5回	テーマ	体調不良や傷害が発生した場合の対応
		内 容	体調不良になった子どもの観察と、適切で迅速な応急手当について学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、子どもの日常一般的にみられる体調不良の症状を知る。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第6回	テーマ	感染症の予防と対応・予防接種
		内 容	感染症の基礎的知識と予防方法、うがい・手洗い法などの具体的実践方法と予防接種の接種時期やワクチンの種類を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、感染症の成立や予防方法、各種消毒法について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第7回	テーマ	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
		内 容	慢性疾患児、肢体不自由児、医療的ケアの必要とする子どもへの対応について病状や治療法（リハビリテーション）、各医療機関と施設間の連携等について学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、個別的ケアを必要とする子どもについて理解する。 復習： 教科書、各種資料、授業内容をもとに要点、疑問点を整理する。
	第8回	テーマ	乳児への適切な対応①
		内 容	乳児期は心身ともに著しく発達する時期であり、ことに環境の変化は身体への負担が大きい。これらの乳児の特徴を知り、適切な保育方法を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、乳児期の心身の特徴と適切な保育について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第9回	テーマ	乳児への適切な対応②
		内 容	乳児の抱き方、オムツ交換、衣服の着脱、沐浴など乳児の日常生活の世話の実際等について、乳児の身体的特徴を考慮しながら手技を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、乳児の日常生活の世話について、その実際を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第10回	テーマ	障害のある子どもへの適切な対応
		内 容	身体障害や知的障害、また発達障害のある子どもの人格を尊重し、その子どもにあった、適切な接し方や社会資源の活用方法について学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、障害の種類、医療や福祉施策との連携を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第11回	テーマ	事故防止及び健康安全管理に関する組織的取り組み
		内 容	子どもの事故の年齢別特徴を知り、適切な予防・対策を学ぶ。また危機管理に関しては個人的ばかりでなく、組織的な取り組みが必要であることを学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、子どもの事故の特徴と予防策について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第12回	テーマ	救急処置及び救急蘇生法の習得
		内 容	子どもの救命率を高めるには、傷害や事故の程度を迅速に判断できる知識と、一次救

	回		命、二次救命処置対応が適切に実施できる技術力の重要性を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、なぜ救命に迅速さが求められるかを理論的に理解する。 復習： 救急救命士より学んだ実技と理論を統合させて、知識として習得する。	
	第13回	テーマ	保育における看護と応急処置
		内 容	保育中における、けが、誤飲、誤嚥、熱中症、溺水などへの対応や救命処置、保護者への連絡、関係医療機関との連携など、具体的対策について学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、突然の事故に対する対処方法について理解する。 復習： 救急救命士より学んだ実技と理論を統合し、知識として習得する。
	第14回	テーマ	災害への備えと危機管理
		内 容	自然災害、大規模な火災、爆発などの災害や事故は生活基盤の崩壊、身体的損傷や精神的喪失感を引き起こす。乳幼児をこれらの災害から守るためには常日ごろの防災対策や災害訓練が大切である。これまでの災害の具体例を示しながら授業を行う。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、災害から子ども達を守るための適切な対策を理解する。 復習： 過去の検証事例や既存の知識と授業内容もとに、対策の要点を整理する。
	第15回	テーマ	子どもの養育環境と心の健康問題
		内 容	子どもの発達には身体発育も運動発達も知的発達も全て関連している。これらの発達には大きく養育環境が関わっている。「望ましい養育環境」についてグループワークの中から学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、発達に影響を与える養育環境等について理解する。 復習： 保育実習で学んだことや、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第16回		定期試験
教科書・テキスト	特に指定しない。毎時、配布資料にて展開する。		
参考書・参考資料等	子どもの保健 第7巻 改訂2版（全国社会福祉協議会） 子どもの保健Ⅰ（1年前期）・子ども家庭支援法（1年後期）の資料等。 その他、関連資料は授業の中で配布する。		
成績評価の方法・基準	定期試験により、各単元の理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（4）獲得の程度（10%）、授業参加度（20%）で評価する。若しくは、小論文形式で実施し、評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	レポートや試験答案は採点后、解説やコメントを行い、フィードバックする。 授業内容や配布資料、各種知り得た情報等をもとに、知識として習得する。		
授業時間外学修	・予習（30分）・復習（1時間）を自己学習として実施する。 ・定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（2時間）		
備 考	・実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県立病院看護師、助産師として産婦人科病棟、NICU・GCU病棟、小児科病棟に約20年間、急性・慢性疾患児及び低出生体重児の看護等に従事した経験と、看護学校、助産師学校において専任教員として約15年間教育にあたる。これらの経験と種々の新しい情報を織り交ぜながら、子どもたちの心と身体の健康を育むことを目的とし、望ましい養育環境・社会環境の在り方等について、一緒に考えていくような授業を行う。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子どもの食と栄養			授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	奥山留美子							
ナンバリング	ESU1C52	開講時期	1 年次 前期・後期	授業時間数	60 時間	授業回数	30	回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	・栄養に関する基本的な事柄、子どもの発育と発達に応じた望ましい食生活について学ぶ。 ・講義、プレゼンテーション、グループワーク、作品製作・調理実習等を通して理解を深める。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○		
到達目標	・栄養の基本的理論を体系的に学び、保育の場に役立つ応用力を養う。 ・栄養バランスのとれた食生活とは何か、子どもの発育や発達段階に応じた具体的な食事法を理解する ・食育を推進する具体的指導方法の一つとして、食育紙芝居を作成する。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活・社会についての知識・理解」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	子どもの健康と食生活の意義					
		内 容	なぜ子どもの食と栄養を学ぶのか。 ライフサイクルからみた小児期。					
		授業時間外学修	予習：テキストの第 1 章を読んでくる。 復習：食にまつわるエピソードをまとめる。					
	第 2 回	テーマ	子どもの食生活をめぐる現状①					
		内 容	日本における子どもの食生活の実態と問題。子どもの食生活の特徴。					
		授業時間外学修	予習：配布資料を読んでくる。 復習：示されたキーワードをまとめ、課題について考える。					
	第 3 回	テーマ	子どもの食生活をめぐる現状② 小児の発育・発達と栄養					
		内 容	味覚と嗜好の発達。子どもの食に関わる課題についてグループごとに考える。					
		授業時間外学修	予習：テキスト第 2 章を読んでくる。 課題：グループごとにまとめる。					
	第 4 回	テーマ	子どもの食生活をめぐる現状③					
		内 容	グループごとにまとめを発表する。日本人の食事摂取基準とその概要					
		授業時間外学修	予習：発表時の役割を確認する。 復習：発表の相互評価をまとめる。					
	第 5 回	テーマ	栄養・食に関する基礎知識①					
		内 容	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能。					
		授業時間外学修	予習：テキスト第 2 章 A、B を読んでくる。					

		学修	復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第6回	テーマ	栄養・食に関する基礎知識②
		内 容	献立作成の実際。食事としての食材や食品を考える。
		授業時間外学修	予習：テキスト第2章Dを読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第7回	テーマ	食の安全① 食品表示と食物アレルギー
		内 容	食品表示法の実際。食物アレルギーの症状と対応
		授業時間外学修	予習：食品の栄養成分表示部分を探し持参する。 復習：参考資料を読んで感想をまとめる。
	第8回	テーマ	食の安全② 食中毒
		内 容	食中毒と予防、食中毒の種類と特徴
		授業時間外学修	予習：配布資料を読んでくる。 復習：家庭における食中毒予防、保育施設における食中毒予防を考える。
	第9回	テーマ	栄養バランスのとれた食事
		内 容	基礎食品群とエネルギー必要量。幼児期の食生活。
		授業時間外学修	予習：テキスト第3章Dを読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第10回	テーマ	栄養状態の把握
		内 容	学童・思春期の食の問題と対応。献立のポイント。
		授業時間外学修	予習：テキスト第6章を読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第11回	テーマ	学齢期の発育・発達と食
		内 容	学齢期の心身の発達、学校給食、食育の基本と内容
		授業時間外学修	予習：テキスト第3章Eを読んでくる。 復習：自分の食生活を見直し、実行可能な改善策をまとめる。
	第12回	テーマ	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①
		内 容	疾病や体調不良のこどもへの対応
		授業時間外学修	予習：テキスト第6章を読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第13回	テーマ	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②
		内 容	障がいのある子どもの食生活。
		授業時間外学修	予習：テキスト第6章を読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第14回	テーマ	家庭や児童福祉施設における食生活
		内 容	児童福祉施設における食に関する指針。給食の役割。食支援のための配慮したい事項。
		授業時間外学修	予習：テキスト第5章を読んでくる。 復習：演習課題に記入し要点をまとめる。
	第15回	テーマ	子どもの食生活をめぐる現状③
		内 容	子どもの食生活に関わる課題を取り上げ、これまでの授業を参考に考えをまとめる。

	回	授業時間外 学修	予習：レポートのテーマを考えてくる。必要な資料を準備してくる。 復習：個々のテーマについてレポートをまとめる。
	第 16 回	テーマ 内 容	実習オリエンテーション、食品衛生 実習の意義。安全に調乳や調理を行うためのガイダンス。
		授業時間外 学修	予習：実習を行う上で不安な点をまとめておく。 復習：食品衛生 すり切りの練習
	第 17 回	テーマ 内 容	レシピ、調理の基本、調乳 レシピの読み方、計量の仕方、火加減、調理器具の扱い方の基礎 調乳。
		授業時間外 学修	予習：自宅の調理器具を確認しておく。 復習：要点をまとめる。自宅でおかゆを炊けるか確認する。
	第 18 回	テーマ 内 容	乳汁栄養と離乳 離乳食について 食べる機能と離乳の進行、おかゆとだし。
		授業時間外 学修	予習：自宅の炊飯器の機能を確認する。 復習：米と水の割合について。テキスト第3章Cを読んで確認する。
	第 19 回	テーマ 内 容	離乳食実習① 離乳初期の離乳食
		授業時間外 学修	予習：出汁のとりかたを復習しておく。 復習：実習のまとめを記入する。
	第 20 回	テーマ 内 容	離乳食について（中期・後期） 咀嚼と消化、離乳中・後期の離乳食、離乳食からの栄養補給
		授業時間外 学修	予習：テキスト第3章C2を読んでくる。 復習：テキスト第3章C、離乳各期の調理方法と食品で確認する。
	第 21 回	テーマ 内 容	離乳食実習② 形態の変化 離乳の進行に伴う形態の変化（初期、中期、後期）
		授業時間外 学修	予習：離乳各期の食品のかたさや状態を調べてくる 復習：実習のまとめを記入する。
	第 22 回	テーマ 内 容	離乳完了期と幼児食について 食べることと心の発達、幼児期の食、幼児期の調理形態、間食。
		授業時間外 学修	予習：切り方の確認をしておく。 復習：実習のまとめを記入する。:
	第 23 回	テーマ 内 容	幼児食実習① 1～2歳児の食事づくり
		授業時間外 学修	予習： 1～2歳児に必要なエネルギーと栄養素を確認しておく。 復習：班ごとに紹介しあった感想をまとめる。
	第 24 回	テーマ 内 容	絵本の中の食 レシピ製作 レシピを作成する。

		授業時間外 学修	予習：絵本を選び、レシピを考える。絵本の表紙をコピーしておく。 復習：班ごとに紹介しあった感想をまとめる。
	第 25 回	テーマ 内 容	幼児食実習② 3～5歳児の食事作り
		授業時間外 学修	予習：3～5歳児に必要なエネルギーと栄養素を確認しておく。 復習：実習のまとめを記入する。
	第 26 回	テーマ 内 容	食育について 子どもを取り巻く現状から食育を考える。保育所の食育。
		授業時間外 学修	予習：テキスト第4章を読んでくる。 復習：自身が経験した食育の内容をまとめる。
	第 27 回	テーマ 内 容	食育紙芝居演習① プランシートを用い、構成・脚本を考える。下絵を描く。
		授業時間外 学修	予習：食育で伝えたいテーマを考えてくる。 課題：下絵を完成させる。
	第 28 回	テーマ 内 容	食育紙芝居演習② 食育紙芝居を制作する。
		授業時間外 学修	予習：絵の彩色を考え、画材を準備する。 課題：紙芝居の彩色
	第 29 回	テーマ 内 容	食育紙芝居演習③ 食育紙芝居の完成と発表
		授業時間外 学修	予習：食育紙芝居の読み聞かせの練習をしてくる。 復習：発表作品について感想をまとめる。
	第 30 回	テーマ 内 容	幼児食実習③ 間食づくり
		授業時間外 学修	予習：望ましい間食について確認してくる。 復習：感想をまとめる。
教科書・テキスト	子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために（学健書院） 八訂 食品 80 キロカロリーガイドブック（女子栄養大学出版部）		
参考書・参考資料等	「食」をとおして育つもの・育てたいもの（ぎょうせい） 保育者のための食育サポートブック（ひかりのくに）		
成績評価の 方法・基準	各時間の提出物、最終レポート、作品により専門的理解の程度（40%）、専門的修得度（40%）、〔前期〕 「コミュニケーション能力」（1）・「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（10%）、授業参加度 （10%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	毎時間実施する振り返りシートの返却時に個々にコメントする。 提出された課題レポートや作品については採点后に講評する。		
授業時間外学修	予習（20分）、復習（30分）として授業計画で示された内容を実施する。 課題のレポート作成（約20時間）、食育紙芝居製作（約50時間）		
備 考	調理実習は身支度を整えて出席すること。エプロン・三角巾を着用し、爪を短く切って授業に臨むこと。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容総論			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	花田嘉雄						
ナンバリング	ESU1C53	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	・保育に関わる全般的なことを学ぶ授業になる。一つの事例について各自の経験を話し合い、解決方法を探るといったグループワークを行いながら、自分自身の保育観を養う。また、教育実習Ⅰの経験を踏まえながら、責任実習に向けた日案や部分案作成のポイントについて学ぶ。 ・課題遂行においては、手書きの他に、スマートフォン等から Google form への回答の記入を求める場合もある。なお、その場合は当該授業内でフィードバックする。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・現在の保育が抱える諸問題を考察する。 ・遊びをもとにした保育内容と5領域とのつながりを考えながら、指導計画（日案）のポイントを理解する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・コミュニケーションについてのグループワーク				
		内 容	グループワークを通して、保育や福祉に携わる人に求められるコミュニケーション能力について考える。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読んでおく。 復習：コミュニケーション能力についての簡易レポートをまとめて提出する。				
	第2回	テーマ	保護者との連携について				
		内 容	子育て支援についての概要を学び、保護者との連携についてのシミュレーションをグループワークとして行う。				
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 329～342 を熟読する。 復習：保護者との連携についての簡易レポートをまとめて提出する。				
	第3回	テーマ	幼児教育の思想について				
		内 容	倉橋惣三の思想に触れる。				
		授業時間外学修	予習：倉橋惣三について調べ学習をする。 復習：Google form による課題を記入して提出する。				

	第4回	テーマ	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
		内 容	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 60～83 を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第5回	テーマ	保幼小連携について①
		内 容	小1 プログラム等の現状と、とその対策としての取り組みや連携の現状を理解する。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 288～292 を一読する。 復習：保幼小連携についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第6回	テーマ	保幼小連携について②
		内 容	保幼小連携について理解を深め、就学を意識した保育活動を考える。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 288～292 を一読する。 復習：保幼小連携に適した保育活動の案をまとめて提出する。
	第7回	テーマ	災害対策について
		内 容	震災時の保育士の対応についての DVD を基に、災害対策や避難訓練等の大切さを学ぶ。
		授業時間外学修	予習：身近な災害について考えておく。 復習：災害対策についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第8回	テーマ	子育てをめぐる現状と課題について
		内 容	子育てをめぐる現状と課題、子ども子育て支援新制度についての概要を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：子ども子育て支援新制度について調べ学習をする。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第9回	テーマ	環境を通して行う保育
		内 容	保育における環境や環境整備についての概要を学び、環境構成図を考える。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 24～26 を熟読する。 復習：保育を行う際の環境整備についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第10回	テーマ	養護と教育を一体的に行う保育について
		内 容	DVD を視聴し、養護と教育の一体性について考察する。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針解説 P. 30～37 を熟読する。 復習：DVD の内容を基にした簡易レポートをまとめて提出する。
	第11回	テーマ	子どもの姿と保育者の関わり方について
		内 容	保育の様子についての DVD を視聴し、実際の子どもの姿や保育者としての関わり方を考える。
		授業時間外学修	予習：自分なりの子どもとの関わり方をイメージしておく。 復習：DVD の内容を基にした簡易レポートをまとめて提出する。
	第12回	テーマ	5領域と保育内容について
		内 容	5領域と保育内容のつながりを考え、指導案（日案）の書き方のポイントを押さえる。
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針 P. 374～388 を一読する。

		学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	幼児と用具について／地域社会との連携と園行事について
		内 容	保育で活用する用具（はさみ）について触れ、様々な素材を切る演習を基に幼児の活動上の留意点を考える。 地域社会との連携や園行事についてまとめる。
		授業時間外 学修	予習：保育所保育指針 P. 31、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 11 を熟読する。 復習：はさみについての簡易レポートをまとめて提出する。
	第 14 回	テーマ	園（クラス）だよりを作成する①
		内 容	園（クラス）だよりの要点をまとめ、行事の招待状としてのたよりを作成する。
		授業時間外 学修	予習：たよりのアイデアを考えておく。 復習：たよりい書くあいさつ文等をまとめる。
	第 15 回	テーマ	園（クラス）だよりを作成する②・授業のまとめ
		内 容	たより作成と授業のまとめ。
		授業時間外 学修	予習：たよりに必要な素材を準備する。 復習：たより課題を完成させる。
	第 16 回		たより課題に提出用レポートを添えて提出する。
教科書・テキスト		保育所保育指針解説（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）	
参考書・参考資料等		幼稚園教育要領解説（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編） また、授業中に適宜資料を配布する。	
成績評価の方法・基準		レポートや部分案、課題等の提出物による専門知識の理解や考え方の程度（60％）、授業参加度（15％）、たより課題や様々な保育を想定したワークを行うことによる「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（25％）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法		レポートや課題は採点后、添削して返却、または講評を行う。	
授業時間外学修		たより等の課題を完成させる。（約 5 時間） 予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回約 20 分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約 10 時間）	
備 考		-	
連絡先（質問等）		オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	児童文化			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	下村 沙季							
ナンバリング	ESU1E54	開講時期	1 年次前期	授業時間	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	配布する資料や現場での実践を紹介しながら、児童文化について学ぶ。グループワークやプレゼンテーション等を通して、他者の考えを受け入れる人材育成の基礎を児童文化の学修の中から理解を深める。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・子どもの育ちの理解と、育ちに合った教材との関わりがわかる。 ・実際に手作りおもちゃの製作を通し、子どもを引きつける保育士としての魅力を身につける。 ・グループワークや絵本、紙芝居等の読み聞かせを通して「コミュニケーション能力」 (3) 「伝え合う手段を見つける」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション・児童文化とは					
		内 容	・児童文化とは何なのか基本的な考え方を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：絵本を借りて読む。(3 冊)					
	第 2 回	テーマ	子どもの遊びと生活					
		内 容	・子どもの生活の様子、現代の子どもの姿を知る。 ・メディアと子どもについて学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：読んだ絵本の感想をまとめる。 復習：好きな絵本を 3 冊読む。					
	第 3 回	テーマ	児童文化財の成り立ち					
		内 容	・児童文化財にはどのようなものがあるのかを知る。 ・児童文化財それぞれの特徴を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：読んだ絵本の感想をまとめる。 復習：好きな絵本や紙芝居等を 3 冊読む。					
	第 4 回	テーマ	伝承遊びとは何か					
		内 容	・伝承遊びにはどのようなものがあるか、実際に体験しながら学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：読んだ絵本の感想をまとめる。 復習：好きな絵本を 3 冊読む。					
	第 5 回	テーマ	子どもと絵本					
		内 容	・絵本とは何か。また、絵本の役割について知る。					

	回		・発達に応じた絵本の選び方を知る。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本等の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本等を3冊読む。
	第6回	テーマ	絵本の読み聞かせの実践①	
		内 容	・様々な場面に応じた絵本を図書館内から選ぶ。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	選んだ絵本の読み聞かせの練習をする。
	第7回	テーマ	絵本の読み聞かせの実践②	
		内 容	場面に応じた絵本を実際に読み聞かせる。	
		授業時間外 学修	予習：	読み聞かせた絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第8回	テーマ	ペープサートを作ろう	
		内 容	・ペープサートの世界を知る。 ・ペープサート製作をする。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第9回	テーマ	ペープサートの製作	
		内 容	工夫しながらペープサート製作を行う。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第10回	テーマ	ペープサートの発表	
		内 容	・製作したペープサートを、グループに分かれて発表し合う。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第11回	テーマ	子どもの発達とおもちゃ	
		内 容	・発達に合わせたおもちゃの提供が大切であることを学ぶ。 ・自身で作る手作りおもちゃを決定する。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第12回	テーマ	手作りおもちゃ製作①	
		内 容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第13回	テーマ	手作りおもちゃ製作②	
		内 容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。	
		授業時間外 学修	予習：	読んだ絵本の感想をまとめる。
			復習：	好きな絵本を3冊読む。
	第14回	テーマ	手作りおもちゃ製作③	
		内 容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。	

	回	授業時間外 学修	予習： 復習：	読んだ絵本の感想をまとめる。 好きな絵本を 3 冊読む。
	第 15 回	テーマ	児童文化のまとめ	
		内 容	・これまでの授業の振り返りとまとめ ・最終レポートについて	
		授業時間外 学修	予習： 復習：	読んだ絵本のまとめ 課題の完成、レポート作成と提出
教科書・テキスト	なし。			
参考書・参考資料等	児童文化論（同文書院） 保育所保育指針（フレーベル館）			
成績評価の 方法・基準	・手作りおもちゃ、絵本等の読み聞かせ、その他発表内容、最終レポートによる児童文化の理解度（70%） ・「コミュニケーション能力」（3）獲得の程度（20%） ・授業参加度（10%） で評価する。			
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出した小レポートについては、次回の授業にて説明する。			
授業時間外学修	・予習（各授業回約 30 分）復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 ・絵本、ペープサート等を使ってみたり、おもちゃを作ってみたり実習や現場で使える自分の財産作りを行う。（約 8 時間） ・最終レポート（約 4 時間）			
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。担当教員は、民間・公立・企業主導型保育所にて保育士として勤務した経験を持ち、現在は企業主導型保育所にて勤務している。その実務経験を生かし、現場の実例などを挙げながら授業を行う。			
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。			

授業科目	乳児保育Ⅰ			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	槌谷由美子							
ナンバリング	ESU1C55	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	・テキストや配布資料を用いて、母親の就業率の増加や出生率の低下により様々な少子化対策が講じられるなかで乳児保育の必要性が社会的にも高まってきていることを学ぶ。 ・乳児（3 歳児未満）の発育・発達の特性を理解し、日常生活における保育者の援助について学び職員間の連携や地域との連携について理解を深める。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解できる。 ・保育所、乳児院等多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解できる。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容と運営体制について理解できる。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	乳児保育の意義・目的と役割①					
		内 容	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について学ぶ。現状と課題について考える。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。					
	第 2 回	テーマ	乳児保育の意義・目的と役割②					
		内 容	乳児保育の役割と機能、母子保健施策の概要について学ぶ					
		授業時間外学修	予習：教科書 第 1 部第 1 講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。					
	第 3 回	テーマ	乳児保育の現状と課題について①					
		内 容	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：教科書 第 1 部第 2 講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。					
	第 4 回	テーマ	乳児保育の現状と課題について②					
		内 容	保育所における乳児保育について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：教科書 第 1 部第 3 講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。					
	第	テーマ	乳児保育の現状と課題について③					

	5 回	内 容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第4講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	乳児保育の現状と課題について④
		内 容	家庭的保育等における乳児保育について学ぶ。 3歳未満児とその家庭を取りまく環境と子育て支援の場について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第5講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育①
		内 容	3歳未満児の生活と環境、事故防止について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第7講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育②
		内 容	3歳未満児の遊びと環境について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第8講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育③
		内 容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第9講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育④
		内 容	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育士等による援助や関わりについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第10講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育⑤
		内 容	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第11講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育⑥
		内 容	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第12講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	乳児保育における連携・協働①
		内 容	職員間の連携・協働について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第13講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	乳児保育における連携・協働②
		内 容	保護者との連携・協働について学ぶ。

	回	授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第14講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	乳児保育における連携・協働③
		内 容	自治体や地域の関係機関との連携・協働について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教科書 第1部第15講に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し要点をまとめる。
	第16回		定期試験
教科書・テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（新・基本保育シリーズ⑮）2019年3月第1版（中央法規出版） 国民衛生の動向（厚生労働省統計協会）		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	定期試験とレポートにより、乳児の状況の把握方法や養護の方法についての理解の程度および「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度（80%）を評価する。 授業参加度（20%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出された記録物については、次回の授業にて解説する。 定期試験については採点后返却する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院（小児科）や保育所の実務経験を有し、山形県立保健医療大学でも勤務経験を持つ。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	乳児保育Ⅱ			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	後藤順子						
ナンバリング	ESU1C56	開講時期	1 年次後期	授業時間数	時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士： 必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	子どもが健やかに成長発達する基本は健康である。 演習を通じて、子どもの健康状態並びに発育・発達の把握と評価、健康づくり及び安全な環境の基礎を学ぶ。さらに、保育の場において実践できる応用的能力を養う知識と技術を学び、乳児保育における支援計画の作成について具体的に理解する。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	(1)3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する (2)養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解し、実践することができる。 (3)乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、実践することができる。 (4)上記 3 点を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 (5)「自分で考え、実践できる能力」「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	乳児保育の基本①				
		内 容	子どもと保育士等との関係の重要性について考える。 演習全体の進め方				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	乳児保育の基本②				
		内 容	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりを学ぶ。子どもの発育に沿った子どもの 1 日の生活の流れと保育の環境について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：実習や子どもとのふれあいで体験したイメージを整理しておく。 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	乳児保育の基本③				
		内 容	子どもの主体性の尊重と自己の育ちを学ぶ。 保育環境				
		授業時間外学修	予習：「保育所保育指針」を読み込んでみる。 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。				

	第4回	テーマ	乳児保育の基本④
		内 容	子どもの体験と学びの芽生えについて学ぶ。乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活への支援と遊びの実際を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：ほかの科目を参考に子どもの体験と芽生えについてまとめておく。 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第5回	テーマ	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活への支援と遊びの実際②
		内 容	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。 課題レポート1
		授業時間外学修	予習：ほかの科目を参考に子どもの体験と芽生えについてまとめておく。 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第6回	テーマ	子どもの健康の評価と観察①
		内 容	全身の心身の発達と保育のポイント①を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：子どもの発育発達について 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第7回	テーマ	子どもの健康の評価と観察②（入浴・着脱等）
		内 容	全身の心身の発達と保育のポイント②（入浴・着脱等の演習）を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：子どもの発育発達について② 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第8回	テーマ	子どもの健康と保育のポイント
		内 容	全身の心身の発達と保育のポイント（健康に留意した保育を考える）を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：子どもの発育発達と保育 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第9回	テーマ	子どもの生活の流れと保育環境
		内 容	1歳児の子どもの生活の流れと保育環境について学ぶ
		授業時間外学修	予習：1歳児の発育発達 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第10回	テーマ	1歳児の保育と2歳児の発育発達
		内 容	1歳児の保育の留意点と2歳児の発育発達の基本を学ぶ 課題レポート2
		授業時間外学修	予習：1歳児と2歳児の発達のプロセス 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第11回	テーマ	2歳児の保育環境と保育の実際
		内 容	2歳児の保育環境と保育の実際について学ぶ
		授業時間外学修	予習：2歳児の保育環境 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第12回	テーマ	子どもの心身の健康等への配慮した保育
		内 容	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための保育について学ぶ
		授業時間外学修	予習：子どもの心身の健康等への配慮事項 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。

	第 13 回	テーマ	集団保育に対する配慮した保育
		内 容	集団保育に対する配慮した保育環境と保育について学ぶ
		授業時間外 学修	予習：集団保育に対する配慮事項 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	子どもの環境の変化や移行に対する配慮
		内 容	子どもの環境の変化や移行に対する配慮した保育の実際を学ぶ
		授業時間外 学修	予習：子どもの環境の変化や移行に対する配慮事項 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ 個別と集団、長期と短期の保育計画
		内 容	個別と集団、長期と短期の保育計画上の配慮した保育について学ぶ 最終レポート（1時間）
		授業時間外 学修	予習：個別と集団、長期と短期の保育計画 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 16 回		
教科書・テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（新・基本保育シリーズ⑮）（中央法規出版）		
参考書・参考資料等	適時示します		
成績評価の 方法・基準	演習態度・レポートにより、乳児保育の理解の程度（50％） 「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30％） 授業参加度・態度（20％）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては解説する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験（レポート）に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。 定期試験（レポート）の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県職員として病院や保健所に長年勤務し、山形県立保健医療大学でも実務経験を持つ。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子どもの健康と安全			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	後藤順子						
ナンバリング	ESU2C57	開講時期	2 年前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	家族形態の変化、地域社会とのかかわりの希薄化等から子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化している。 演習を通じて疾病や障がい、医療的ケアへの対応、児童虐待が疑われる場合の適切な対応、保育所における食育計画、施設内の環境整備や安全対策、災害に備えてのマニュアルの作成等について具体的に理解する。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	(1)保育における健康を踏まえた保育環境や援助について理解する。 (2)関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における健康管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 (3)子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (4)関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 (5)保育における健康づくりの基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 (6)子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。						
授業計画	第 1 回	テーマ	子どもの健康と安全を学ぶ意義・重要性				
		内 容	子どもの成長発達と健康、子どもの取り巻く環境を学ぶ。授業の進め方				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	子どもの健康と発育①				
		内 容	成長発達の一般原則と心身の発達について学ぶ				
		授業時間外学修	子どもの健康と発育② 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	予習：子どもの成長発達と評価				
		内 容	子どもの成長発達と評価について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：子どもの成長発達と評価項目				

		学修	復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第4回	テーマ	子どもの健康と子育てに必要な養護①
		内 容	子どもの特性と基本的な生活習慣について学ぶ
		授業時間外学修	予習：子どもの特性と基本的な生活習慣 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第5回	テーマ	子どもの健康と子育てに必要な養護②
		内 容	子どもの特性に沿った日常に必要な養護について学ぶ 課題レポート1
		授業時間外学修	予習：子どもの健康と子育てに必要な養護項目 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第6回	テーマ	子どもの事故防止とその予防
		内 容	子どもの事故の特徴と応急処置について学ぶ
		授業時間外学修	予習：子どもの事故防止項目 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第7回	テーマ	子どもに多い病気とその対処及び予防①
		内 容	子どもに多い病気とその対処及び予防（感染症とかかりやすい病気）を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：子どもの感染症 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第8回	テーマ	子どもに多い病気とその対処及び予防②
		内 容	子どもに多い病気とその対処及び予防（予防接種と慢性疾患）を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：予防接種と慢性疾患 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第9回	テーマ	障害を持つ子どもと家族へのかかわり方①
		内 容	障害を伴う病気と症状について学ぶ
		授業時間外学修	予習：子どもの障害を伴う病気と症状 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第10回	テーマ	障害を持つ子どもと家族へのかかわり方②
		内 容	長期療養や医療的ケアが必要な子どもに対する保育について学ぶ 課題レポート2
		授業時間外学修	予習：長期療養や医療的ケアが必要な子どもに対する特徴 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第11回	テーマ	児童虐待
		内 容	児童虐待の背景と特徴及び予防について学ぶ
		授業時間外学修	予習：児童虐待の背景と特徴及び予防 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第12回	テーマ	災害から子どもを守る
		内容	災害の特徴と子どもを守る保育上の配慮について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：災害の特徴 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。

	第 13 回	テーマ	様々な特徴がある子どもの保育
		内 容	インクルーシブ保育の実際について学ぶ
		授業時間外 学修	予習：インクルーシブ保育の背景 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	子育てにおける地域との連携と協働①
		内 容	子どもにかかわる地域のネットワークシステムと保育者の役割について学ぶ
		授業時間外 学修	予習：子どもにかかわる地域のネットワークシステム 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	子育てにおける地域との連携と協働②まとめ
		内 容	保護者と地域における他職種連携について学ぶ 最終レポート（1時間）
		授業時間外 学修	予習：地域における他職種連携 復習：授業内容を振り返り要点をまとめる。
	第 16 回		
教科書・テキスト		子どもの健康と安全（改訂第 2 版）中山書店	
参考書・参考資料等		授業中に示します	
成績評価の 方法・基準		・演習態度・レポートにより、「子どもの健康と安全」の理解の程度（50％） ・「フィードバック能力」（2）獲得の程度（30％） ・授業参加度・態度（20％）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		授業後に提出されたレポートについては解説する。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 マスコミ等で報道される子どもと家族、保育に関する報道等を積極的に収集し、保育に関する役割を探究しておくこと。	
備 考		実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県職員として病院や保健所に長年勤務し、山形県立保健医療大学でも実務経験を持つ。	
連絡先（質問等）		授業前後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	社会的養護Ⅱ			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	伊藤 和雄						
ナンバリング	ESU2C58	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、児童福祉施設における施設養護の基本原則、養護の技術と方法、日常生活指導及び施設職員の支援、地域ネットワーク作り等を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して日常の活動に流されがちな施設養護を福祉の技術を生かした実践に高められるよう、共に考える。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・児童福祉施設における施設養護の基本原則、養護の技術と方法、日常生活指導及び施設職員の支援、地域ネットワーク作り等についての視点を説明できる。 ・「自分で考え、表現できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション、児童の社会的養護とは何か				
		内 容	子どもの権利擁護の基本を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P2～P10 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	社会的養護における子どもを理解する				
		内 容	社会的養護のもとで生活する子どもの家庭環境、背景を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P14～P24 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	社会的養護の内容①日常生活支援を学ぶ				
		内 容	子どもの課題をアセスメントし、支援方法を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P26～P36 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	社会的養護の内容②心理的支援を学ぶ				
		内 容	社会的養護における心理的支援の特徴、養育者支援の基本を理解する。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P38～P48 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	社会的養護の内容③自立支援について学ぶ				
		内 容	社会的養護の子どもの退所後の進路状況、自立支援に必要な視点を学ぶ。				

	回	授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P50～P60 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	施設養護の生活特性および実際①乳児院等
		内 容	施設養護の生活特性と対象者を理解する。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P62～P72 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	施設養護の生活特性および実際②障害児施設等
		内 容	児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設の機能と支援内容を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P74～P84 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	家庭養護の生活特性および実際
		内 容	里親制度を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P86～P96 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	アセスメントと個別支援計画
		内 容	アセスメントと個別支援計画、自立支援計画を作成する。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P98～P108 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	記録および自己評価
		内 容	記録の意義と役割、個人情報保護の保護、守秘義務を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P110～P120 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
		内 容	社会的養護における保育の専門性、リフレクション、エピソード記述を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P122～P132 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
		内 容	相談援助の定義、ソーシャルワーク視点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P134～P144 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）
		内 容	ジェノグラムの描き方、読み方、エコマップの作製方法を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P146～P156 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	社会的養護における家庭支援
		内 容	社会的養護施設のDVDを視聴し実際の支援方法を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会的養護Ⅱ P158～P170 まで読む。 復習： 既習内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第	テーマ	まとめ・今後の社会的養護の課題と展望

	15 回	内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	社会的養護Ⅱ(相澤仁・村井美紀・大竹智編著 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	筆記試験と提出してもらう課題レポートより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、表現できる能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 時間) 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)		
備 考	-		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子育て支援			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	吉田一斉、村井弘伸						
ナンバリング	ESU2C59	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を学ぶ。また、グループワーク、ロールプレイ等の演習を通して、子育て支援の内容、方法、技術を、具体的に学ぶ。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・保育士が行う子育て支援の特性、展開について理解できる。 ・保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、具体的に理解できる。 ・保護者などとの信頼関係構築のための知識、技術を習得できる。 ・様々な場や対象に即した支援について、具体的に理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	保育と子育て支援				
		内 容	保育士が子育て支援を担う意義を理解する。 子育て支援とソーシャルワークについて理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読み、授業内容を把握しておく。 保育所保育指針を把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 保育士が行う子育て支援の意義や役割について、まとめる。				
	第 2 回	テーマ	子どもの権利と子育て支援				
		内 容	子どもの権利について理解する。 子どもの最善の利益を考慮した保育・子育て支援について理解する。				
		授業時間外学修	予習：児童の権利に関する条約を把握しておく。 全国保育士会倫理綱領を把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子どもの最善の利益を念頭に、保育所保育指針を見直す。				
	第 3 回	テーマ	保育の専門性と子育て支援				
		内 容	保育士に求められる専門性を理解する。 子育て支援の構造を理解する。				
		授業時間外学修	予習：全国保育士会倫理綱領を把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。				

			子育て支援において、保育士に求められる専門性をまとめる。
	第4回	テーマ	子育て支援の展開過程
		内 容	子育て支援の展開過程と留意点を理解する 子育て支援における関係機関との連携について理解する
		授業時間外学修	予習：保育所が連携する地域の関係機関・社会資源をテキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子育て支援の展開過程において、保育者が留意すべき点をまとめる。
	第5回	テーマ	子育て支援における計画
		内 容	計画の必要性と計画策定の方法について理解する
		授業時間外学修	予習：計画の概要について、テキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 計画作成のグループワークから、自分の考えと他者の考えを振り返る。
	第6回	テーマ	子育て支援における記録と評価
		内 容	記録の方法・目的・留意点について理解する 評価の必要性と評価方法について理解する
		授業時間外学修	予習：記録の概要について、テキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ジェノグラム・エコマップの作成手順を整理する。
	第7回	テーマ	保護者との信頼関係の構築
		内 容	信頼関係を築くための基本姿勢について理解する 面談の基本姿勢について理解する
		授業時間外学修	予習：自身が信頼できる人はどのような人か、考えをまとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 自己覚知について、整理する。
	第8回	テーマ	保護者の理解と関わり方
		内 容	保護者の思いに気づくための基本支援について理解する 保護者をエンパワーメントする視点を理解する
		授業時間外学修	予習：自身が保護者と関わる際に、不安な点を整理しまとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 他者理解について、整理する。
	第9回	テーマ	社会資源の活用と関係機関との連携・協力
		内 容	子育てを支援する社会資源を理解する 関係機関との連携・協力の実際について理解する
		授業時間外学修	予習：自身を取り巻く社会資源をまとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ネットワークの中での、保育士の役割を整理する。
	第10回	テーマ	保育所等における支援
		内 容	保育所の特性を生かした保護者への支援について理解する 相談・助言における保育士の専門性の範囲と限界について理解する

		授業時間外学修	予習：バイスティブの7原則を把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 実習先での、保育所の特性を生かした保護者支援の実践について、整理する。
	第11回	テーマ	地域の子育て家庭に対する支援
		内 容	保育所に求められる地域子育て支援について理解する
		授業時間外学修	予習：自身の地域における、多様な子育て施策についてまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 子育て支援センターの役割について、整理する。
	第12回	テーマ	子どもの虐待の予防と対応
		内 容	虐待への対応について理解する 児童虐待が疑われる家庭への子育て支援について理解する
		授業時間外学修	予習：要保護児童対策地域協議会について、調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 不適切な養育等が疑われる家庭への支援について、保育所保育指針を見直す。
	第13回	テーマ	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
		内 容	保育ニーズの多様化について理解する
		授業時間外学修	予習：現代における様々な子育て環境について、テキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 ソーシャルワークについて、テキスト第1章を見直す。
	第14回	テーマ	障がいのある子ども及びその家庭に対する支援
		内 容	障がい受容の過程について理解する 障がいのある子どもを育てる家庭の心理特性、生活課題について理解する
		授業時間外学修	予習：児童発達支援センターと、その役割について、テキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 発達障がいの分類と特性について整理する。
	第15回	テーマ	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
		内 容	問題・課題のある保護者への支援について理解する
		授業時間外学修	予習：現代における様々な子育て環境について、テキストで把握しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点を整理する。 保護者のデマンドと、真のニーズについて整理する。
	第16回		
	教科書・テキスト		
	演習・保育と子育て支援（みらい）		
	参考書・参考資料等		
	授業中に適宜資料を配布する。		
	成績評価の方法・基準		
	課題やレポートによる各領域理解の程度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(15%)、出席状況及び授業参加度(15%)で評価する。		
	課題に対するフィードバックの方法		
	課題やレポートは、講評や解説を行う。		
	授業時間外学修		
	予習(各授業回 30 分)：授業範囲のテキストを読んでおく。 復習(各授業回 30 分)：テキストや配布プリントについて、学習内容を復習し、習得する。		

備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、障がい児・者施設において、10 年以上相談援助業務に従事している。障がい児・者及びその家族に対する相談援助、ケアマネジメント通して、家族・家庭への子育て支援を行ってきた。その実務経験を活かして、具体的な事例をあげながら授業を行う。
連絡先（質問等）	授業前後に、教室等にて質問を受ける。

授業科目	保育実習指導 I			授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	実習委員会							
ナンバリング	ESP1C60	開講時期	1 年次後期 (一部集中)	授業時間数	60 時間	授業回数	30	回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	実習全般における諸準備や心構え、具体的展開を学ぶことで、実習活動を主体的に取り組むようにする。また、外部講師の講話等を通して、社会人として必要とされる基礎的な力（実務）や協調性や協働性等（態度・姿勢）を身につける。							
アクティブラーニングの実施		－		ICT を活用した授業の実施		－		
到達目標	・各種の施設の特色や機能の違いを理解する。 ・実習依頼の方法を学び、社会への礼節を理解する。 ・実習の意義を理解し、深い学びを実現する。 ・実習の事前事後指導を徹底し、実習を有益なものにする。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	保育実習指導オリエンテーション					
		内 容	施設見学について					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読しておく。 復習： 実習ノートの p 76-77 を記入する。					
	第 2 回	テーマ	施設見学オリエンテーション					
		内 容	見学コースごとに分かれて、施設の種別、概要について学ぶ					
		授業時間外学修	予習： 施設見学の際の準備物を確認する。 復習： 見学のしおりを熟読する。					
	第 3 ～ 6 回	テーマ	施設見学					
		内 容	見学コースごとに各施設を見学し、施設の様子、役割、仕事を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 見学する際の質問事項をまとめる。 復習： 実習ノート p 78-79 を記入する。					
	第 7 回	テーマ	施設見学の振り返り					
		内 容	見学を通しての感想をレポートにまとめる。					
		授業時間外学修	予習： 施設の資料を熟読する。					

		学修	復習： 見学した際のレポートをまとめる。
	第 8 回	テーマ	教育実習Ⅰオリエンテーション
		内 容	日誌の書き方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノートの p 23 を熟読する。 復習： 実習ノートの p 24-25 をまとめる。
	第 9 回	テーマ	教育実習Ⅰ直前指導
		内 容	附属幼稚園主幹教諭による教育実習に向けての指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノートの p 41-43 を読む。 復習： 実習ノートの p 43 をまとめる。
	第 10 回	テーマ	日案指導、教育実習Ⅰ事後指導
		内 容	附属園主幹教諭による教育実習の事後指導と日案指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 50 を読む。 復習： 実習ノート p 55 をまとめる。
	第 11 回	テーマ	施設実習オリエンテーション（調整・保育実習Ⅲ希望調査）
		内 容	施設実習の希望調査に関してと、教育実習の依頼事務についての指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 76-79 を読む。 復習： 実習ノート p 7 を読む。
	第 12 回	テーマ	教育実習Ⅰの振り返り
		内 容	次回の実習に向けての振り返りと礼状の書き方の指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 教育実習について振り返る。 復習： お礼状を書く。
	第 13 回	テーマ	実習におけるマナー（行動と言葉遣い）
		内 容	実習におけるマナーについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 8 を読む。 復習： 実習ノート p 8 をまとめる。
	第 14 回	テーマ	教育実習Ⅱ・Ⅲオリエンテーション
		内 容	実習概要を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノートの p 46-49 を熟読する 復習： 実習概要を理解する。
	第 15 回	テーマ	障がいについて
		内 容	障がい関連の DVD を視聴し、障がいについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 71 を読む。 復習： レポートを書き理解を深める。
	第 17 回	テーマ	保育実習施設（ねらいと調書）
		内 容	1 年次春期、又は 2 年次夏期に実施予定の施設実習について準備する。
		授業時間外 学修	予習： 「ねらい」「調書」を作成する。 復習： 各種施設での実習の理解を深める。
	第 18 回	テーマ	教育実習Ⅱ・Ⅲオリエンテーション
		内 容	希望調整と依頼事務

	回	授業時間外 学修	予習： 実習園の希望を調整する。 復習： 実習の依頼事務をする。
	第 19 回	テーマ	保育実習施設オリエンテーション
		内 容	映像資料を視聴し、実習施設種別ごとの日課や仕事について学ぶ。
	第 20 回	授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 76-79 を読み返す。 復習： 配布資料を読む。
		テーマ	感染症とその予防について 保育実習保育所オリエンテーション
	第 21 回	内 容	感染症について学ぶ。また、保育所への実習前のオリエンテーションの依頼についての指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 7 を読む。 復習： 実習園にオリエンテーションの電話をかける。
	第 22 回	テーマ	「感染症」についての理解を深める
		内 容	前回の講義内容を振り返る。
	第 23 回	授業時間外 学修	予習： 前回の資料を読み返す。 復習： レポートを書き、理解を深める。
		テーマ	保育実習施設オリエンテーション
	第 24 回	内 容	施設長の講話を聴き、実習に向けての準備や心構えについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 質問事項をまとめる。 復習： 講話の要点をまとめる。
	第 25 回	テーマ	「施設長の講話」の振り返り
		内 容	前回の「施設長の講話」を振り返り、施設実習への理解を深める。
	第 26 回	授業時間外 学修	予習： 講話内容を振り返り反省点をまとめる。 復習： レポートを書き、更に理解を深める。
		テーマ	保育実習施設事前指導
	第 27 回	内 容	全体指導と施設種別ごとの指導、巡回担当教員による個別指導を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 80-81 を読んでおく。 復習： 実習ノート p 82-83 をまとめる。
	第 28 回	テーマ	実習報告会
		内 容	全学年対象の報告会であり、全種別の実習についての体験の報告を聞き、次のステップに活かす指導を行う。
	第 29 回	授業時間外 学修	予習： 配布資料を読む。 復習： レポートをまとめる。
		テーマ	日案作成演習①
	第 30 回	内 容	日案の基本的な書き方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート p 50-53 を読む。 復習： 日案の見本を転写する。
	第 31 回	テーマ	日案作成演習②
		内 容	設定保育の部分案を作成する。

	回	授業時間外 学修	予習： 設定保育の教材案を準備する。 復習： 部分案を修正する。
	第 29 回	テーマ	日案作成演習③
		内 容	部分案を修正し、日案を完成させる。
	第 30 回	授業時間外 学修	予習： 部分案を完成させる。 復習： 日案を完成させる。
		テーマ	まとめと授業評価
		内 容	これまでの授業内容を振り返り、授業評価を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノートを読み返す。 復習： 提出物についてまとめる。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年度 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する		
成績評価の 方法・基準	各領域理解の程度（20%）、専門的技能習得度（20%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	レポート等には採点後に講評を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分として、授業計画で示された内容を実施する。 テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間） 授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）		
備 考	*実務経験のある教員（一部）による授業科目である。 担当者は、実習施設の施設長や幼稚園での主幹教諭であり、実務経験が豊富である。その経験を活かして施設の実情に合った有益な指導を行う。 実習指導は必要に応じて担当教員の研究室にて指導を行う。		
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室または担当教員の研究室にて指導、質問を受け付ける。		